

(別紙2-1)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271101471		
法人名	社会福祉法人 のぞみ会		
事業所名	グループホームのぞみの杜		
所在地	〒851-2126長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷1578 (電話) 095-887-3333		
評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	2008年2月21日	評価確定日	2008年4月1日

【情報提供票より】 (2007年 12月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)13年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算	6.3人

### (2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1 階建ての	1 ~ 1 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	6,000+実費 円
敷 金	有 ( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	- 円	昼食 - 円
	夕食	- 円	おやつ - 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要 ( 12月 1日現在 )

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	- 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	- 名	要支援2	- 名
年齢	平均 88 歳	最低 78 歳	最高 94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西田医院 百合野病院 荒木歯科
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、住宅街の傍に位置し、介護老人福祉施設と併設して建てられています。運営法人は、介護老人福祉施設を中心に複数の介護サービス事業を展開されており、それらとの連携も当ホームの強みとなっています。ホーム内は、光や色などに配慮された空間となっており、清潔感と日差しによる暖かみを感じられます。理念にある「その人のあるがままの生活支援」という言葉をスタッフ全員で大切にされ、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメントシート)をホームにあわせた形で有効活用しながら介護計画の作成や日々の支援を実践されています。季節に応じた野鳥が飛来するホームの中で、ご利用者は、チームワークのとれたスタッフに見守られ、笑顔で過ごされています。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) <b>改善に向けてた取り組みが行われています。</b> 前回の指摘事項については既に改善活動が完了しており、独自の改善に向けた取り組みが展開されています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) <b>スタッフへの評価の意義の浸透に努められています。</b> 自己評価には、その意義や評価項目の理解及び課題の共有化を目的にスタッフ全員で取り組まれています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) <b>会議開催の頻度とその構成メンバーについて見直しが必要です。</b> 運営推進会議において積極的な意見交換が行われていることは議事録で確認できますが、その開催状況は3~4ヵ月に1回といった状況です。今後は、開催頻度について見直され、参加メンバーに市町村職員か地域包括支援センター職員を含めることを検討する必要があります。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) <b>苦情受付の体制が確立され、運営への反映実績も確認できます。</b> 第三者委員や苦情受付窓口が明確にされ、面会時のご家族との情報交換を心掛けられています。また、ご家族の意見を運営に反映させた実績も確認できます。今後も、ご意見や苦情の積極的な聴取からサービスの質の向上につなげるといった取り組みに期待できます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) <b>積極的な活動が見受けられ、今後の取り組みに期待できます。</b> 地域の老人会での健康増進を目的とした健康体操の実施や万歩計の寄贈など、地域福祉を担う姿勢が明確に感じ取れます。また、地域の祭りやホームとして出店されるなど、積極的に地域と協働や交流を図ろうとする姿勢が見受けられます。

(別紙2-2)

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのかかわりを大切に考え、家庭的な雰囲気の中「その人のあるがままの生活支援(9人9通りの生き方)」という独自の理念を掲げ、その実践に向けた取り組みが行われています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の掲示や会議での周知はもちろん、スタッフ全員が手帳に理念と目標などを記入し、日々立ち戻れるよう携帯されるといった周知に向けた有効で積極的な活動も見受けられます。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会の会合で、健康増進を目的に健康体操の実践や万歩計の寄贈などが行われ、長与川祭りへの出店などによる地域との協働も実現されています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、その意義の理解の浸透と課題の共有化を目的に、スタッフ全員で取り組まれており、外部評価の結果についても改善に向けた活動が展開されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価結果報告を含めホームを理解いただくための取り組みや、行事に関する話し合いなどが行われており、積極的な意見交換が議事録で確認できます。現状3～4ヵ月に一回程度の開催で、入居者やご家族及び民生委員が参加されています。	○	運営推進会議の開催頻度について見直すことが求められます。また、参加メンバーに市町村の職員または地域包括支援センターの職員の参加が求められます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とのかかわりは、連絡協議会やケア連絡会での情報交換のほか、工夫を凝らした関係作りが行われており、連携に向けた関係構築が実現されています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご利用者の状況報告は、面会時に口頭で行われ、ホーム通信を2ヵ月に1回配付されています。新入職スタッフの紹介なども行われていますが、離職の際の報告などは見受けられません。	○	スタッフの異動については、ご家族に対する影響も大きい場合がありますので、新入職に限らず離職なども含めたご家族への報告が望まれます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員や苦情受付窓口などの体制が整備され、契約時の説明も行われています。また、面会時などにもその聴取に努められており、ご家族からの意見により、ご家族への報告の仕方について見直されるなど運営に反映させた事例も確認できます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やりがいを持てる働きやすい職場づくりに努められており、資格取得を推奨した組織作りやストレス解消のためのリフレッシュホリデー（連休）なども設けられています。職員が相談しやすい環境にあり、退職や異動後も気軽に遊びに来られるなどご利用者との関係性の継続にも配慮が見受けられます。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育訓練手順や介護技術基準及び年間研修計画が整備されており、スタッフに対し外部の研修案内も行われています。研修受講及び資格取得が法人全体で推奨されており、外部研修の参加希望を聴取する仕組みも確立しています。スタッフが積極的に資格取得を目標にされていることも確認できます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市や長与町の連絡協議会やケア会議に参加されており、積極的な交流及び情報交換が行われています。また、更なる交流の方法も模索されており、積極的な交流による質の改善やスタッフのスキルアップを目指されています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはご本人やご家族の状況に応じて居宅などを訪問し、見学も受け入れられています。また、行事に招待し参加いただいたり、体験入居なども行われています。入居直後は家族との連絡を密にし、馴染まれるまで相談しながら対応されています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは、ご利用者を人生の先輩や家族に近い存在として、利用者と介護者としての関係ではなく、人と人の関係づくりを目指されています。訪問調査時には昔話に花が咲き、その話を驚いたり楽しんだりしながら耳を傾けられているスタッフの姿がありました。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での気づきや回想法の活用及び家族との連携により、ご利用者の意向の把握に努められています。把握した意向はセンター方式（認知症の人のためのケアマネジメントシート）に取りまとめられご利用者支援に活用されています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族等からの情報及びスタッフの気付きなどはセンター方式の活用により取りまとめられ、本人やご家族、場合によっては医師などを含めた担当者会議において介護計画が作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則として3ヵ月に一回、モニタリングが行われ、介護計画についての評価、見直しが実施されています。随時の見直しについては、その都度担当者会議を開催し取り組まれており、内容の小さな変更などは、介護計画に追記や削除が行われ、日誌や伝達ノートなどの情報の共有化が図られています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者やご家族の状況に応じて、通院介助や外部の美容室の利用、ふるさと訪問などの支援が行われています。また、同一施設内の他事業所との交流なども行われています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご利用者等の希望により選定され、在宅医療に力を入れられている医師との連携体制もあります。現在3人の医師の訪問診療が行われており、計画書などの情報提供に併せて状況報告が行われています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、ホームとしての指針が作成され利用開始時に説明されています。終末期に関する話し合いも行われ意向が明確な方については、その記録も残されています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護マニュアルや個人情報保護規程なども整備され、個人情報の利用目的も明確にされた上で同意も得られています。スタッフの言葉遣いや態度にも十分に配慮されており、その他居室入口ののれんなどからもその細やかな配慮がうかがえます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お風呂や起床時間、就寝時間、食事の時間など、ご利用者のペースを尊重した対応が行われています。理念に沿って9人9通りを尊重した対応に努められていることがうかがえます。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者は小鉢への盛り付けなどでスタッフと協働され、スタッフは、食事に関する話題づくりなどに努められています。また、食事をスタッフで相互評価する仕組みがあり、ご利用者に楽しんでいただきたいたいといった取り組みがうかがえます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については、基本的な曜日が設定されていますが、希望に応じた柔軟な対応も行われています。浴槽に自然の素材であるみかんの皮などを浮かべ五感への刺激にもつながっているとのこと。介助者の性別については、希望に応じた対応が行われています。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の生活歴をヒントに「やってみようかな」「できるかもしれない」といった場面作りに努められています。また、更に一人ひとりに応じた役割や楽しみごとを探していきたいという姿勢もうかがえます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者の状態や季節的な配慮のもと、買い物や散歩、同一敷地内の他事業所への訪問などが行われています。車椅子による外出支援も行われています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠されることなく、ご利用者の外出は、癖や傾向を把握し対応されています。安全面から玄関にはセンサーが使用されていますが、時間帯によりセンサーのスイッチを切るなど、音量に対する配慮が感じられます。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練が実施されており、マニュアルも整備されています。職員の中には消防団員がおられ、消防団との連携も十分で、地域の方への協力依頼も行われています。食料品や水の備蓄および災害時の必需品などは併設施設に準備されています。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量など個別対応が行われています。昼食は、緑黄赤白黒の食材をバランスよく使用し、食材を15品目以上使用した食事が提供されています。また、献立に関するカロリーチェックなどは併設施設の栄養士がかかわられています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは開放的で清潔に保たれ、季節の花や行事に応じた飾り付けが行われています。自然の光をカーテンで巧くコントロールし、のれんやテーブルクロスなどにより色合いにも気を配られています。中庭を囲む廊下にはテーブルやイスなどが置かれ思い思いに過ごせる空間も確保されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み品には、特に制限を設けられておらず、ご家族と相談され馴染みのものを持ってきて頂くよう働きかけも行われています。居室は一人ひとりの個性が感じられるレイアウトになっており、思い思いに馴染みの品が持ち込まれています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票を添付すること。